

待合室から広げる

宮城協会 杉目博厚さん

簡単にストレスフリーな署名



保団連は、①患者負担の軽減②保険適用範囲の拡大③歯科医療充実の予算増を訴える署名に取り組んでいる。宮城協会の杉目博厚さん(写真)に署名を広げる工夫や意義を聞いた。

難しく面倒?

「保険でより良い歯科医療を」実現させる請願署名が始まった。署名は「難しい・面倒だ・そんな時間はない」という歯科会員の皆様も数多くいらつしやうと思う。

しかしそうだろうか。私の中ではこれほど簡単な署名はないと感じている。私は何もしない。診療中に患者さんに訴えることもしない。受付でもお願いしていない。唯一することは待合室の真ん中に署名の机を置くことだけ。署名用紙とその内容がわかるパンフレットを見やすいように配置し、横に署名箱を取り付ける。署名箱はあえて集まった署名が上から見え



待合室中央にある机に置かれた署名用紙や解説パンフレットなど。机右端には書いた署名を入れる箱が設置されている

るようになっている。これだけで自然と署名が集まる。考えてみれば至極当然のことである。署名の趣旨を読めば、今

設置するからである。今回は保団連が作成したパンフレットに加え、福岡歯科協会のホームページに掲載している「患者さん説明用プリント」の中から署名を訴えるものも利用させてもらっている。非常にわかりやすい文章で、署名による今までの成果の記述もある。

自院においてこの署名に取り組むことは、患者さんにとって歯科の重要性、そして社会保障、国民皆保険制度の充実と現状の問題点を訴える格好の機会である。「保険でより良い歯科医療」を訴えるこの署名は、患者さん

に大きな共感を得られるものだ。ゆえに「難しくなく・面倒でなく・時間は取られない」簡単なものではないだろうか。一定の歯科医師が多数の署名を集めていることには本当に頭が下がる。しかしこの署名を全国の各診療所において、通院している患者さんから20筆、30筆と集められることができたとしたら、それが目標を大きく突破できることは確実である。皆様が診ておられる患者さんのためにも簡単に、ストレスフリーで署名活動に参加してみませんか。

「高齢者優遇型から全世代型社会保障へ」。それが政府の目下的方針である。日本の社会保障は本当に高齢者優遇型なのだろうか。官庁データで検証してみる。



政府は75歳以上の窓口負担を現在の1割から2割へと引き上げることを決めた。高齢者負担増をどう考えるべきか。佐久大学特任教授の唐鎌直義氏に連載で解説してもらう。(全6回)

高齢者負担増を考える

①日本の社会保障の本当のレベル

それは先立ち「世界に冠たる日本の社会保障を守るために、国民の皆様には消費税率の引上げを是非ともお認めいただきたい」と、就任時に力説した安倍前首相の認識は客観的に正しいのか。そこから始めようと思う。

表は、日本を含む先進

安倍氏はおそらく、厚労官僚にこのデータを見せられた結果、大見得を切る気になったのだと思う。しかし、社会保障は最終的に乳幼児から高齢者まで、国民一人ひとりに

工業国6カ国の社会支出(社会保障給付費+施設整備費等)の総額を国際比較したものである。日本は、タントツに高いアメリカの5兆7253億ドルに次いで、第2位の1兆4112億ドルとなっている。総額で見れば英国、ドイツ、フランスを上回っている。

社会支出(総額)の国際比較(2015年)

Table with 7 columns: Country, National Income (Billion Dollars), Social Expenditure Rate, Social Expenditure Total (Billion Dollars), Rank, Total Population, Per Capita Social Expenditure (Billion Dollars), Rank. Rows include Sweden, UK, France, Germany, Japan, and USA.

※ 社会支出率は「OECD基準による社会支出の対国民総所得比」のことを意味する。各国の国民総所得と総人口は、国連「National Accounts Analysis of Main Aggregate」より引用。詳しくはhttps://unstats.un.org/unsd/snaama/Basic参照。 ※ 社会支出率に関するデータは、社会保障費用統計http://www.ipss.go.jp/ss-cost/j/fsss-h29/fsss_h29.asp参照

給付されるものだ。人口規模を無視して語ることはできない。社会支出の総額が同等の国でも、人口の少ない国と多い国では社会保障のレベルが大きく違ってくる。社会支出の総額だけでは、その国の社会保障のレベルは判断できない。例えば、スウェーデンの社会支出は、表に示したように、2015年現在2108億ドルと6カ国中桁違いに低い(最下位)。しかし、スウェーデンは今も「世界に冠たる福祉国家」であり続けている。総人口が東京都23区内の人口とほぼ同程度、日本の総人口の約7分の1しかないから

6カ国中1位のスウェーデンの1人当り社会支出2万1592ドルを100とすると、日本のそれは1万1026ドルで、たったの51。今も日本の福祉はスウェーデンの約半分のレベルに止まっていることが分かる。日本の社会支出の総額が大きいのは社会保障のレベルが高いからではなく、単に日本の人口が多いからに過ぎない。

1人当たりでは日本は最下位

総額で2位だった日本は、1人当り社会支出では最下位に転落する。なぜか。それは日本の人口はイギリスの人口の1.94倍、ドイツの1.56倍、フランスの1.92倍もあるからだ。人口規模がこんなに違っていては、総額で多少上回っているから福祉大国だと考えるのは軽率過ぎる。

安心して歯科医療を受けられるように 保険でより良い歯科医療を

保団連も参加する「保険で良い歯科医療を」全国連絡会では、保険のきく歯科医療の改善を求める署名に取り組んでいます。歯科医療の大切さを知ってもらうリーフレットも一緒にご利用ください。ご注文は保険医協会・医会まで。

ネット署名はこちらから



署名



リーフレット

Advertisement for 'Sketch Hand' dental equipment, featuring a handpiece and a stand. Text includes '飛沫防止対策' (Spit prevention strategy), '特別割引価格 120,000円' (Special discount price 120,000 yen), and contact information for Hasebe Kogyo.